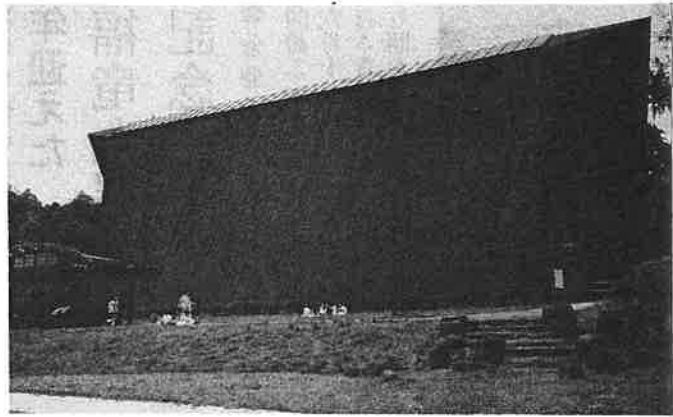


# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会  
連絡所 〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494



25周年を迎えた展示館とエンジンの建物

展示館開館二十五周年に思う  
第五福竜丸の持つ意義が一向に弱まらぬ現代の日々の中で：  
私は、この五月で丁度十一年間、埼玉東松山にある丸木美術館の館長を続けさせていただきましたが、年齢もすすみ足も悪くなってきましたので、辞めさせて頂きました。  
私は、世界八ヶ国にございますキ

リスト教の婦人団体であるYWCAに少女時代から加入し、六八年間会員として、グループリーダーとして、幹部委員として、また全国会長として、世界の友らと世界の平和を求めつつ、できる限り努力をしてみました。  
一九七〇年、思いがけなく全国会長に推挙され、それ以来、あの第二次大戦の中で、広島および長崎の原爆攻撃を受けた世界唯一の国として、本当の世界平和のため「核否定の思想に立つ」という姿勢をすべての中心精神として、今日までさまざまなプログラムを展開して来ました。  
一つには憲法の精神を深く学び、社会生活の中に具体的に生かす努力を続ける生き方、また、全国の平和を学ぼうとする中高生を八月の半ば過ぎ、実際に被爆した二つの都市を訪ねる勉強の旅を行い、今年はまだ三十一回目となります。  
私も一回も休まず、若い人たちが毎年思いを新たに、あの時にはじまった核攻撃の場に立ち、核否定及び真の平和について考え続け、若人たちとも考え語りつづけて来ました。その若

関屋 綾子

人たちのプログラムのうちにこの第五福竜丸見学、核実験によって、いかなる事態が起こったかを学び、考え続けました。そしていまお尾を引きつづけているビキニ水爆実験、核の恐ろしさ、それを人間を相手として作り出していることに、悲しみとおそれを強く強く感じています。  
ことここ三十年近く行きつづけている広島と長崎の原水爆禁止世界大会への参加を通して、マーシャルの核実験を体験した方々ともおかに接し、その犯罪行為が、同じ人間を相手として行われたその事実のあとを身近に感じ、私たち現代の時間と日々を過ごしている者たちの責任と使命を強く強く感じています。  
第五福竜丸の持つ意義が一向に弱まらぬ現代の日々の中で、私たちは、今一度その事実を確認し、この船が持つ意味を、私たちのあとにつづく真の平和を希求する若人らとともに、核の持つおそろべき意味、それがまた、人間の心のおそろべき反映である事を深く考えたいと思います。核を捨てさせるため、他者とも力を併せ、本当の世界平和のため生命の限り努力をしたいと思えます。第五福竜丸の語る事実は絶大です。私たちの責任も絶大です。  
(キリスト者、元日本YWCA会長、第五福竜丸平和協会評議員)

## 『集い』でのご挨拶から

田中 照巳さん (日本被団協事務局長)

福竜丸の被ばくがなければ、私たち被爆者はどうなっていたらうという気がします。被爆者が苦しい年月を過ごしていたときにビキニ事件がおこり、国民の中に原水爆反対の運動が燎原の火のようにおこり日本被団協が結成されたというわけです。  
展示館が、広島・長崎とともに若い人たちが平和を学ぶ場、親たちの学びの場になっていることを本当に嬉しくおもいます。

中村 博さん (日本子どもを守る会会長)

展示館ができたころはまだ現場の教師で、子どもたちを連れて展示館へ行きました。退職して日本民話の会に参加し、そこに福竜丸保存に尽力をされた堀田さんの奥さんがいらして、福竜丸で平和を語る集いをやろうということになりました。やるからには長続きする会を、ということでも久保山愛吉

洪谷 隆さん (日本青年団協議会社会女性部長)

青年館の前に3本ございます久保山愛吉・すずのバラが今ちょうど咲いております。青年団の平和運動のひとつとしてバラを育てていきたい。平和集会とか各県の催しのときにこのバラを贈呈するか植樹するとかをつうじて広げていきたいと思っています。もっと福竜丸展示館を活用し青年団としてもがんばっていききたいとおもいます。

海老沢 恵子さん (東京都生協連、第五福竜丸から平和を発信する会)

第五福竜丸のエンジンを東京・夢の島への運動を二年がかりですすめみなでがんばって署名や募金にとりくみ実現できましたけれど、その間のことを思い出すと、福竜丸の保存と展示館の二五年を担われたかたがたのご努力をづくづ思っています。  
エンジンの運動で、いろいろな

## ◇ご参加の方々の紹介

市民団体とも繋がりができ、四月にはお花見平和のつどいをもち、来年はもっと大勢の関わりをつくりたいと思います。

「集い」には、時間の関係で発言はいただけませんでした。平和協会発足時の評議員内山尚三さん(世界平和アピール七人委員会)、保存委員会発足時に事務局を置いていただいた東京友会・東京被団協会長の田川時彦さん、立花誠逸さん(前山梨県立女子短大教授)、野口邦和さん(日本科学者会議事務局長)、鏡良美さん(日本生協連組合員活動部長)、増田浩司さん、東京原水協代表理事の山崎元さん、柴田桂馬さん、日本原水協の岸本直美さん、原水禁の井上弘さんが参加。また第五福竜丸保存活動当初から「第五福竜丸」を振りつづける森下一徹さん、太平洋の核実験場やマーシャル諸島島民の核被害を撮影し展示館での写真展示に協力されている豊崎博光さん、展示館の地元でご協力をいただいている江東区職員組合の方々、また日常的に平和協会でボランティアとしてご協力を

## ◇6月の展示館から◇

展示館東側の出入口のわきには、紫陽花が群生しています。その横には紅色の夾竹桃が咲いています。紫陽花は長崎の市花。夾竹桃は広島市の花。梅雨にぬれて輝き、6月のどんよりした空にむかって明るい色彩がひととき鮮やかです。そして展示館内は子どもたちの明るい声が響きます。

6月の入館者数(6/28まで) 八、八八五人

展示のなかで「ビキニ事件と第五福竜丸」についての説明と写真製を新たに製作しました。アクリル製のケースで同一規格(天地110センチ、左右90センチ)で二〇枚で構成されています。

# 25周年迎えた 第五福竜丸展示館 記念の集い開く

「第五福竜丸展示館開館二十五周年記念の集い」は、六月十一日午後六時から新宿区の日本青年館で平和協会の主催により開かれま



した。第五福竜丸の紅と濃紺の大漁期がかかげられた「集い」には、第五福竜丸元乗組員の大石又七さんをはじめ、第五福竜丸が夢の島に放置された頃から船を見守り保存運動を推進された方々、また「第五福竜丸から平和を発信する連絡会」の皆さんなど、各界から五十人を超えるご参加をいただきました。

## 展示館を支え 励まし各界から

主催者を代表して川崎昭一郎平和協会会長は、第五福竜丸が永久保存にいたるなかでの先人のご努力、開館当初から今日まで協力されている方々、また東京都の尽力に感謝を申しのべるとともに、展

示館の視聴覚化などの取り組みを説明し「二十一世紀において、第五福竜丸展示館が果たす平和創造の役割と責任に改めて思いを致し皆様とともにこれを育てていくためにご支援ご鞭撻を」とあいさつしました。「集い」には、夢の島公園を管理・管轄している東京都東部公園緑地事務所長柳沢克次氏のあいさつ(別掲)、広島・秋葉忠利、長崎・伊藤一長、焼津・戸本隆雄各市長からのメッセージがよせられ、紹介されました。また、第五福竜丸船長筒井久吉さん、映画監督新藤兼人さんなど、三二の団体・個人からもメッセージが寄せられました。

## 二一世紀を 平和の世紀に

乾杯の音頭をとっていただいた田中里子さん(東京地婦連参与)は、第五福竜丸と乗組員の被災、ひきつづく市民生活の不安が原水爆禁止の声をかけ合うきっかけになったこと、第五福竜丸から平和を発信する連絡会の発足にいたる経過や東京地婦連が植樹した八重

紅大島桜の下で開かれた「お花見平和の集い」などにふれ、「船体とエンジンが一緒になった第五福竜丸とともに、二一世紀を核廃絶を実現し平和の世紀にするため一緒にがんばりましょう」とあいさつしました。

つづいて 各界からのごあいさつが、田中照巳さん(日本被団協事務局長)、中村博さん(日本子どもを守る会会長)、山辺昌彦さん(立命館大学国際平和ミュージアム)、海老沢恵子さん(東京都生協連)、渋谷隆さん(日本青年団協議会社会女性部長)、佐藤康英さん(原水禁国民会議事務局長)、高草木博さん(日本原水協事務局長)の各氏からおこなわれ、お祝いのご挨拶とともに第五福竜丸展示館の役割をともに果たすための連帯と励ましをいただきました。

青年団の渋谷さんは日本青年館の前庭で咲いた「久保山愛吉・すずのバラ」を携えてあいさつし、青年団の運動の一つとしてこのバラを育て広げていきたいと述べ、関屋綾子さん(協会評議員)にバラを手渡ししました



## 第五福竜丸への 想いを語る

元第五福竜丸乗組員の大石又七さん(協会評議員)は、第五福竜丸が夢の島で発見されたときの福竜丸乗組員の被災者としての心情を語り、現在、機会あるごとに各地で、また展示館来館者などに当時のことを伝え話していることを述べ、感銘をひろげました。

海南市から参加された第五福竜丸エンジン熊野灘から引き揚げられた杉末廣さんは、「のれんもTシャツも第五福竜丸と書いてあ

る」まずやる気になることが大切だと語り、エンジンと第五福竜丸によせる熱い思いの丈を話しました。

ジャーナリストの岩垂弘さん(協会評議員)は、保存運動から今日までのいろいろな方のかかわりを忘れないようにしたい。当時の運動状況のなかで、第五福竜丸保存を呼びかけた八氏をはじめ、実務を担当した人たちが、「井戸を掘った人」が果たされたことを忘れず、生かしていきたいと語りました。

第五福竜丸が夢の島に放置された状況をいちはやく記事にし、展示館完成後も足しげく通い第五福

## ご挨拶(要旨)

東京都東部公園緑地事務所長 柳沢 克次

早いもので、展示館が開館させて二五年の年月が流れました。この間、展示業務につきましまして、福竜丸および原水爆被害に関する多大な資料を収集・保存されている第五福竜丸平和協会に委託をして参りました。東京都の平和行政の一部を担っていたとき、一定の成果が得られていると考える次第

です。一人でも多くのお客様にこの公園として展示館においでいただき大いに楽しみ学んでいただきたいと思えます。今までの二五年間の経験を生かし、引き続きこの展示館を発展させていきたいと考えております。



竜丸の状況をつたえた白井千尋さん(九三年死去・元「赤旗」記者)の夫人白井雅子さん(新日本婦人の会副会長)は、白井さんが「第五福竜丸を訪ねると平和の想いが湧いてくる」と日頃話していたこと、また敗戦時に水産講習所(水産大学の前身)に学んでいたことも福竜丸への思いを深くしたのではないかと話しました。

## 核兵器のない

### 時代にむけて

保存よびかけ人八氏を代表委員として結成された第五福竜丸保存委員会は二人の世話人を置き委員会を運営しましたが、そのときの

世話人吉田嘉清さん(協会評議員)は、もう一人の世話人岩垂寿喜男さん(当時総評国民運動局、元環境庁長官)や、保存委員会を起ち上げた頃の今は亡き人々のことを語りました。

福竜丸が発見された当初から、江東区の小学校教諭をしながら船を見守ってきた青木佳子さんは、台風や豪雨などで何度も沈没しそうなったこと、手探りの草の根からの活動のこと、そしていまボランティア説明員の一人として子どもたちに展示館の案内をつづけていることを話しました。

「集い」の閉会挨拶は、服部学平和協会理事からおこなわれ、貴重なお話に感謝します。展示館がやるべきことにぜひお力をかしていただきたい。核の力がどれほど大きくとも、世界の人々が、思想信条を乗り越えて団結すれば、核兵器廃絶の力が引き出せる。やがて、この展示館で福竜丸を見て、昔、水爆という爆弾で最初の犠牲になったのがこの船だと言われるような時代を迎えるため頑張っていきたいとのべ、午後八時三〇分に散会しました。(4めんへつづく)